

令和7年度 第2回鯖江市行政評価委員会 会議録（要旨）

日時：令和7年11月18日（火）

19：00～20：15

会場：市役所4階第1委員会室

出席者：井上委員長、近藤副委員長、八田委員、上坂委員、吉村委員

鯖江市：交通・にぎわい創出課 今川課長、山岸主幹

農林政策課 松田課長、杉本参事

事務局：行政管理課 峰田課長、清水参事、橋本主査

## 1 開会

## 2 外部評価実施

### ① 福井鉄道福武線支援事業（所管：交通・にぎわい創出課）（18：55～19：35）

<概要説明>（今川課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長 2022～2024年の3年間Bランクだった理由を教えてください。また、定期はマイナスで、定期外はプラス。これは子の数が減っているということ。この点について所見を。

ハピラインの資料がないが、福井鉄道との連携、意思疎通はとれているか。情報共有と対策を。

また、適切な成果指標を設定して目標達成に向けて取り組んで欲しい。

所管課 ハピラインとの比較については、ハピラインの資料が公表されていないが、（各駅の乗降者数の説明）。

ハピラインは微減だが、福鉄は大きく減少している。学生が大きくハピラインに流れたのだが、これは時間がかかることと、定期券が2倍の価格であることが原因。

3年間Bランクとなったのは、コロナ明けで、またコロナが明けてもハピライン開業で福井鉄道に乗りする人が減少傾向となっているため。効果測定難しい。人口減少という大きな問題もあるが、利便性も大事だが愛着を増やすためイベントを開催している。

- 委員 3市合意の金額でR9まで協定結んで確定しているのか？補助金額はいくらか？
- 所管課 協定や要綱で決めている。毎年協議して決算で残額あれば、翌年減額するが残はない。
- 委員 福鉄はイベントなどしても変わらないのではないかと。福武線はハピラインとニーズ異なる。やり方を考えるといいのでは、と意見したい。
- 所管課 運転手が28人必要だが、23人しかいない。確保策を打つ。料金はハピラインと同額にできなくはないが、赤字が広がる。ただ、時間は埋められない。交通・にぎわい創出課では、関西から来るツアーをやっており、コースにラッピング車両に乗るコースがあり、アンケートをとったらラッピング車に乗りたいという意見が2位だった。このような、県外客の誘致。また、鉄オタへの普及、遠足での利用など、利用者を増やす取り組みを行なっていく。
- 福井は、日本でも区間の短い電車が並行して走っている珍しいところ。利用者増やすのも必要だが、通勤通学以外の用途も考えていく必要がある。一方で、経営判断も最終的には必要だと思う。
- 担当課としては、足がない人に神明駅を利用してもらったりしており、福鉄を存続させていきたい。
- 委員 ラッピングいいと思う。他市へのPRにもなる。なぜ12月末までなのか。もっと長く使ってもいいのでは。
- 委員 ラッピングがもつのが3年、予算の都合。掲載料年100万。ラッピング料300万。これらの費用が理解されれば続けられるが。紫式部やピカチュウなどのラッピングも。ラッピングできる車両は3両のみ。福井村田と鯖江市。
- 委員 掲載料も福鉄に恩恵あるので料金は交渉できるのでは？
- 所管課 値下げしてこの金額。3年1500万。
- 委員 学生利用減っている、初めて使う際に補助を出して、何回か乗って福井駅まで行くのに補助。体験補助とか。これで親しみができる。高校の無償化で福井の学校に通う子供も増えた。子どもも気に入った電車に乗りたいと思う。親としては3年学校に通ってもらうためには大事なこと。
- 委員長 体験とかはあるのか？
- 所管課 遠足で使えるのは半額助成。保育園の子ども貸し切り電車の補助。片道106,000円、往復20万円。北府駅にシミュレーターがある。これらの補助を検討している。子どもへの愛着情勢、レッサーパンダ。国の補助をもらいに行こうと思っている。
- 委員 小学校とか幼稚園への補助は？
- 所管課 小中高までは団体補助有。考えているのは小学校まで。デイサービスでプチ遠足を考えている。公共体験するのも大事と思っている。
- 委員 社会に出る体験の1つになるので、ご支援いただきたい。
- 所管課 少人数のイベントも検討したいと思っている。
- 委員長 ふるさと納税で福鉄関連はある？沿線で協議会、市民会議、同じようなものがある？連携イベントは行っているか？

所管課 返礼品はない。ラッピング電車は候補になっている。福井市、越前市も負担金補助金やってる。福井市も花いっぱい運動で沿線に花を植えている。

越前市は北府駅で福井市と合同イベント。顔出しパネルなど共同利用している。

<方向性判断>

委員長 R8はR9まで同額。維持ないし、改善が妥当かと。すぐに改善は難しいので。人の流れが大きく変わっているなど、人の獲得方法の見直しも必要。決まっている年度まで支出するにしても、時間を掛けて見直していく、という意味で維持に。  
⇒方向性は**維持**で。

(付帯意見)

委員長 ①ハピラインとの関連。福鉄の強み変わっていると思うので、これから期待できる分野に力を入れる。②子の乗客が減っているので、子どもの頃から乗ってもらい愛着を醸成する。そのためにはより積極的な支援、負担軽減策が必要。③R10以降の方向性について、新幹線開業後の動向を踏まえて早めに検討していただきたい。

委員 追加で、福鉄という会社として維持するため、補助金ありきの話になっている。

所管課 人材、資材などを共同調達してコストを抑えている。たとえば、合同採用とか、売れるモノを売るとか、洗車のイベントなど。国庫補助の活用や相互乗り入れ、沿線3市と負担を減らしているなど経費圧縮に努めている。福井鉄道は、日本で2番目に何でもやる会社といわれており、あらゆる努力はしている。

委員長 赤字補填になってしまうとだめなので、企業努力に努めてほしい。

## ② 森林空間いきもの調査事業（所管：農林政策課）（19：40～20：15）

<概要説明>（松田課長）

◆事務事業調書および補足資料に基づき概要説明

<質疑応答>

委員長 市民が参加すべきものなのか？シカに遭遇しても逃げるしかない。調査は中止だが、市民が参加すべき理由がないと。

所管課 シカ増えているので、他人事ではないと知ってもらいたい。獣害対策で防止策を進めるうえで、実態を知ってもらうために開催している。柵の設置は別予算。日本海は冬になると電氣流れる部分をとらないと痛む。シカへの心理効果薄れるので、春にまた張る。

委員 畑が食い荒らされる対策は打ってると思うが、これは人に危害を加えるものか？

所管課 人が山に入って（シカが？）人に危機感を覚える。山際まで人が入って、獣が忌避して寄らなくなる。

委員長 人が森林空間に入るのはなんのために？森林伐採？

所管課 捕獲や調査のために入る。

所管課 シカを見ることがない、シカ増え始めてる、シカを見る、エンカウトするための意

識作り。2018年はカメラ調査で年16頭確認したが、2023年は216頭。増えすぎた。「見えないものを見る」が当初の目的。見直ししてもいいタイミング。

委員 この事業を無くすという選択意識もあるのか？

所管課 調査がメイン、アカデミーは統合も1つと考えている。

委員 実施と変更点、今までどんな人がなり手だった？

所管課 集落援助者。

集落捕獲のハードルが高い、一般の人目に触れる機会も少ない。捕獲補助者なら資格不要。講習のみで補助者になれる。お手伝いを増やしたい。

委員 なかなか、自分がやらないと、と思う人が少ない。そこに住んでない人ならなおさら。

所管課 自分たちの集落は自分たちで守ってもらうつもりで進めている。

委員 自然との共生を大事にしている人は多い。福井の人でなくてもいいと思う。そういう仕組みがあるといい。

委員長 全国的な問題にもなっている。シカのニュースは？

所管課 丹南はシカが増えている。農業者の方には問題になっている。これ以外にも猟友会との協力で捕獲を進めている。集落の皆さんにも協力をお願いしたい。そのためにこの事業を進めている。

<方向性判断>

委員長 内部評価では、事務改善（プロセスの改善）となっている。改善は大切だが、PRの強化、内部見直し、それ以外の改善も必要と感じた。

事務改善でもいくつも該当があるので、「**事務改善**」という評価だけでいいか。カッコ書きはつけない。

事務局 問題ないと思う。

委員長 環境変化を見据えたさまざまな改善を。市外からも協力できる体制もありだと思う。シカ、クマへの関心は増えていると思うので、その点を市としてPRするのも1つ。

委員 鳥獣対策も複数あるなら統合できるのでは？と思う。

### 3 閉会（20：05～20：10）

<各委員から一言>

上坂 シカの取り組みについて、農業者以外の人からの意見は感心がない、との声が多い。シカのことを周知してくれると、地域の人々の理解も進む。

井上 PRの話に盛り込みましょう。

上坂 福武線の話も知れてよかった。勉強になった。

近藤 細かいものを掘り下げた方がいい。評価しないといけないものが他にあるのではと思う。行政の、かるい、突っ込まれたくない部分もあるのではと感じる。

井上 事業の選び方は委員から聞くのも1つですね。

八 田 いい意見。

吉 村 今回も知らない事業を知れて見方が変わる。福鉄もいろんなイベントをしているのだと感じた。ハピラインはイベント無理と聞いていたが、福鉄は OK という意味を理解した。観光などに結び付けられる、柔軟にできるのはポイント。

井 上 市の内部評価を市民目線でチェックする。方向性の違いや、新鮮な意見を担当部署に届けられたと思う。積み重ねて行政サービスの向上につなげてほしい。  
今後も市民の厳しい目線で行政の事業を見ていきたい。

<市長への報告について>

12月22日（月）に委員長と副委員長で市長報告に。